

いっぱいの家

text by Shinji Ishii

文 いしいしんじ

アマゾンの巨大さは、とうてい想像しきれない。世界の淡水の三分の二をたたえ、すべての支流を足し合わせると、赤道を一周するという。

けれども、そんなみかけの数字以上に、アマゾンの間は広く、深い。国分拓の著したノンフィクション・ノベル『ノモレ』（新潮社）は、そんな闇の奥へ、一歩、また一歩と踏みこんでいく。

主人公のロメウは、ペルー・アマゾンの奥地で生まれ育った、先住民イネ族の男。三十六歳。イネ族には珍しい高等教育を受け、若くして、ふるさとの村モンテ・サルバドールの村長をつとめている。ソーラーパネルや浄水器など文明の利器を柔軟に取り入れるいっぽう、先住民の権利や土地にかかわる問題となると、体を張って戦う。

すると、対岸の男がはつきり言い返してくる。傷ついた仲間がいる、助けてくれ！

翌朝、友人の医師を連れてロメウは森にはいる。家族に付き添われ、足首をジャガーに噛まれた少女が横たわっている。

交流がはじまる。交友、といってもいい。たどたどしい会話。バナナ。好奇心。最初に境界を飛びこえてくるのはいつだって子どもだ。長男のカナイは、ロメウのするとおり、ハグや握手を楽しげに真似る。女たちもおずおずと、肩に手を置くだけのハグを交わす。はじめ表情のかたかった家族の長クッカも、だんだんと笑うようになる。ある日、髪の毛を短く切ってくる。自分の頭とロメウのアタマを指さして微笑む。わたしの真似をして切ったのか？ ロメウがきくと、にやりとして頷く。妊娠している少女は「さわって」と、ふくらんだ腹へロメウの手を導く。

ロメウとクッカたちの出会い、交流は、アマゾンの深い森のなかでしか起きえなかった奇跡だ。白人の人類学者は、イゾラドたちを絶滅から守るために、文明化も必要だと考える。ロメウはしかし、自分のなかから湧きあがる、森の声をきく。彼らは、わたしの友、きよ

政府からの要請で、ロメウはアマゾンを廻り、とある屋の上に建つレンガ小屋に、部下ふたりと常駐することになる。そこからは川と、対岸の広い岸、深い森の入り口が見わたせる。ロメウの仕事は、最近出沒し、先住民を襲う、という「イゾラド」の動静を監視し、近隣をパトロールすること。

イゾラドとは、文明社会と接触したことのない、先住民を言い表す総称。ペルーでは絶滅し、もう存在していないと思われていた。

じつは、モンテ・サルバドールは、ロメウがまだ十代だった頃、百人以上のイゾラドの集団と交流をもったことがあった。その関係は向こうからの村への襲撃によって苦い幕をおろしたのだが。

イネ族にはこんな言い伝えがある。百年以上前、アマゾンの森のゴム農園から、イネ族

うだい、ノモレではないか。だとすれば、このわたしこそ、彼らの友、きょうだい、ノモレに他ならないではないか。

アマゾンの、茶色く濁った川水のなかで、カワイルカは音で会話し、魚たちは匂いで獲物を追う。クッカとその家族、またその仲間たちもおそらく、森を歩くとき、町の人間にはおおよそが知らない方法で、行き先を探り、状況をさぐり、仲間と通じあい、生き抜いてきたはずだ。生まれるときは森からにじみ出るように生まれ、亡くなるときは、森の奥へ沈みこんでいく。

だからこそ、出会えたとき、時間や習俗を

の奴隷が白人を殺して逃げた。追っ手がすぐうしろに迫ったとき、男たちは森のなかで二手に分かれて逃げ、それから二度と会うことがなかった。

ロメウも含め、村人はずっと、こんな風に考えている。イゾラドと呼ばれている裸の集団は、そのとき別れた仲間ではないか。ノモレ、ではないのか。ノモレとは、仲間、きょうだい、を意味する、イネ族のことば。

レンガ小屋に赴任して数日後、対岸にひろがる暗い森から「彼ら」があらわれる。ふたりの男が、武器である弓矢を持たず、落ち着かない様子でじつと小屋のほうを見ている。ロメウは川べりへ下りていき、呼びかける。

ノモレ！ ノモレ！

私たちは、友だちだ、きょうだいなんだ！

こえてノモレに会ったとき、森のひとびとは歓喜する。互いのからだに手をまわし合って喜ぶ。カナイはロメウの肩に手をまわし、少女は腹を触らせる。

やがてクッカたちは森の奥へ去る。けれどロメウは、ロメウたちは、いつまでも待ちつづける。手ぶらのカナイがひょっこり土産をもって現れるのを。成長した少女が赤ん坊をロメウの腕のなかに抱かせてくれる目を。ロメウとクッカが肩を組む。そこらでおおせいが同じようにしている。いつかまたアマゾンの奇跡は起きる。河原に集った全員が、ほんもののノモレ、きょうだい、家族になる。



ペルー共和国

面積：約129万km²(日本の約3.4倍)
総人口：3,182万人(2017年10月推定値、ペルー統計情報局)
首都：リマ
民族：先住民45%、混血37%、欧州系15%、その他3%
言語：スペイン語(他にケチュア語、アイマラ語等)
宗教：国民の大多数はカトリック教徒

Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツエ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を救え!』(町田康共著)『熊にみえて熊じゃない』『濃い足の話』、絵本に『赤ずきん』(ほしよりこ絵)など多数。

